



令和 8 年度 名寄市 全国学力・学習状況調査の結果

①教科調査

Update 2026.9.30
名寄市教育委員会

令和 8 年 4 月 23 日（木）、小学校第 6 学年、中学校第 3 学年を対象にした「全国学力・学習状況調査」が実施され、名寄市では市内全小中学校の対象児童生徒（小学生162名、中学生155名）が当調査に参加しました。（＊智恵文小中学校においては、前期課程が小学校、後期課程が中学校に含む。）

同年 7 月下旬、調査結果を受け取り、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であること等に留意し、各学校長とのヒアリングを交えながら分析を進めてまいりました。

このたび、今後、明らかになった課題の克服や、児童生徒の学力・学習意欲の向上を図るため、学力や学習状況の傾向、指導の改善策等について取りまとめましたので、お知らせいたします。

教科に関する調査の結果

R8 平均正答率 平均正答数	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
名寄市	60 7.9/13問	56 8.9/16問	61 9.1/15問	47 7.6/16問	469
北海道	60 7.8/13問	54 8.6/16問	63 9.5/15問	55 8.8/16問	490
国	60.9 7.9/13問	56.4 9.0/16問	63.9 9.6/15問	57.0 9.1/16問	499

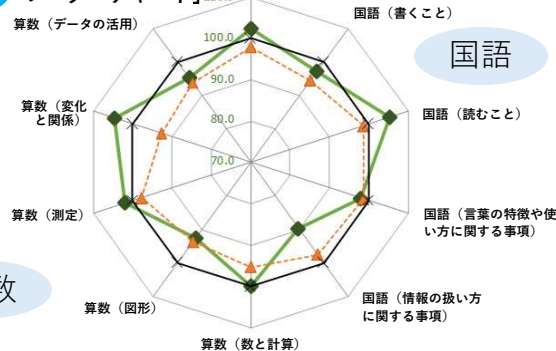
※[教科の領域別レーダーチャート]は、全国を100とした場合の全道（オレンジ）及び本市（緑）の状況をレーダーチャートで示したものです。中学校の英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

※[教科を中心とした学力・学習状況]は、全国との比較です。

教科の状況

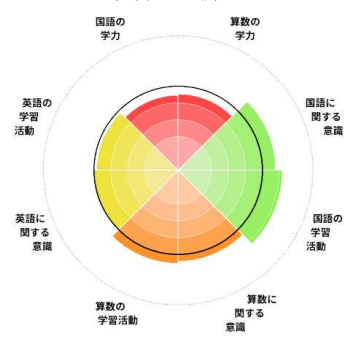
小

[教科の領域別レーダーチャート]



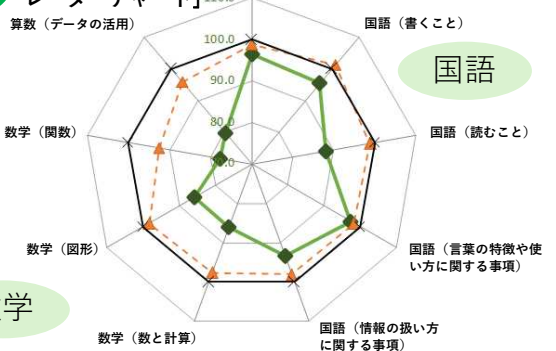
算数

[教科を中心とした学力・学習状況] (全国との比較)



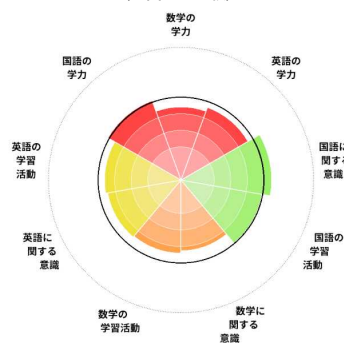
中

[教科の領域別レーダーチャート]



数学

[教科を中心とした学力・学習状況] (全国との比較)



調査概要

目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、
・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査対象】 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

【調査事項】 ①児童生徒：教科調査（小：国語、算数 中：国語、数学、英語）、質問調査

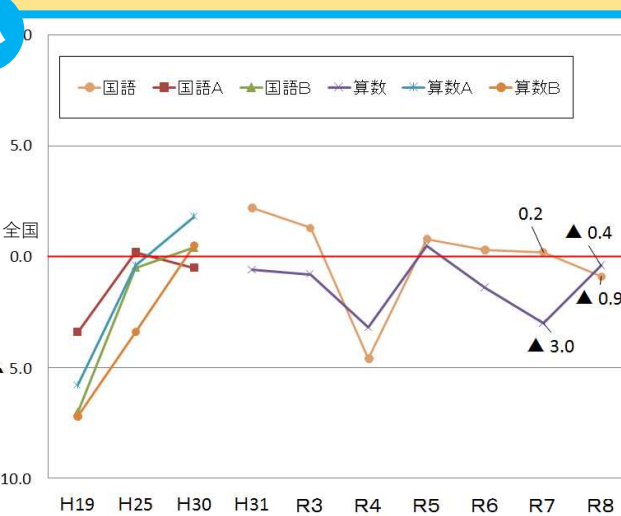
②学校：質問調査

【調査問題】 学習指導要領で育成を目指す、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を問う問題を出題。

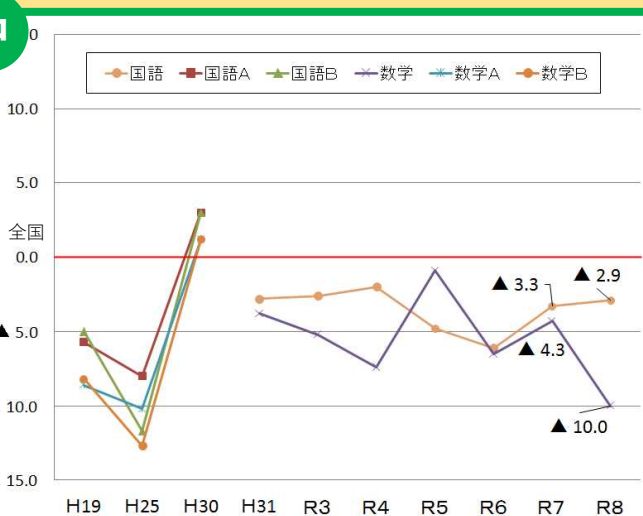
経年変化

※数値は全国平均正答率との差

小



中



教科に関する調査の結果ポイント ○成果 ●課題

【国語】

(小) ○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが概ねできている。
● 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことにおいて課題がある。

(中) ○ 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことが概ねできている。
● 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするに於いて課題がある。

【算数・数学】

(小) ○ 単位分数の個数に着目し、数直線上の 1 を表す目盛りを概ね捉えることができています。

● 二次元の表から、条件に合う数を読み取るに於いて課題がある。

(中) ○ 2 直線が平行になるための条件を概ね理解している。

● 起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができています。

【英語】

(中) ○ 店員と客のやり取りを聞くことが概ねできている。

● 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取るに於いて課題がある。

→ 基礎的な内容を理解し、活用する力（知識及び技能） が身に付いてきているが、情報を整理・関連付けて、根拠をもって考える力（思考力・判断力・表現力等） を伸ばす必要がある。



令和8年度 名寄市 全国学力・学習状況調査の結果

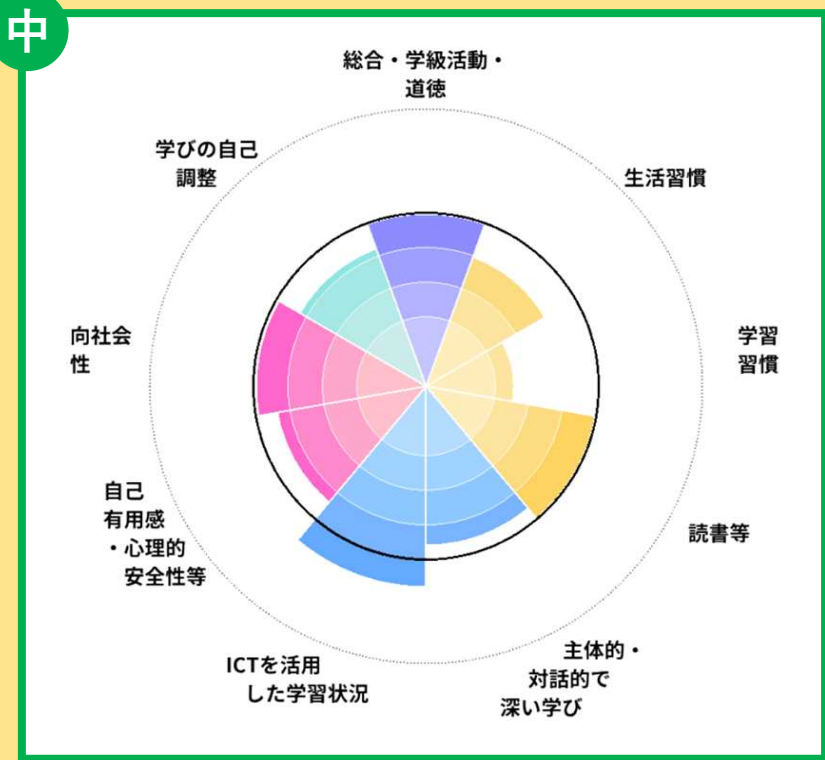
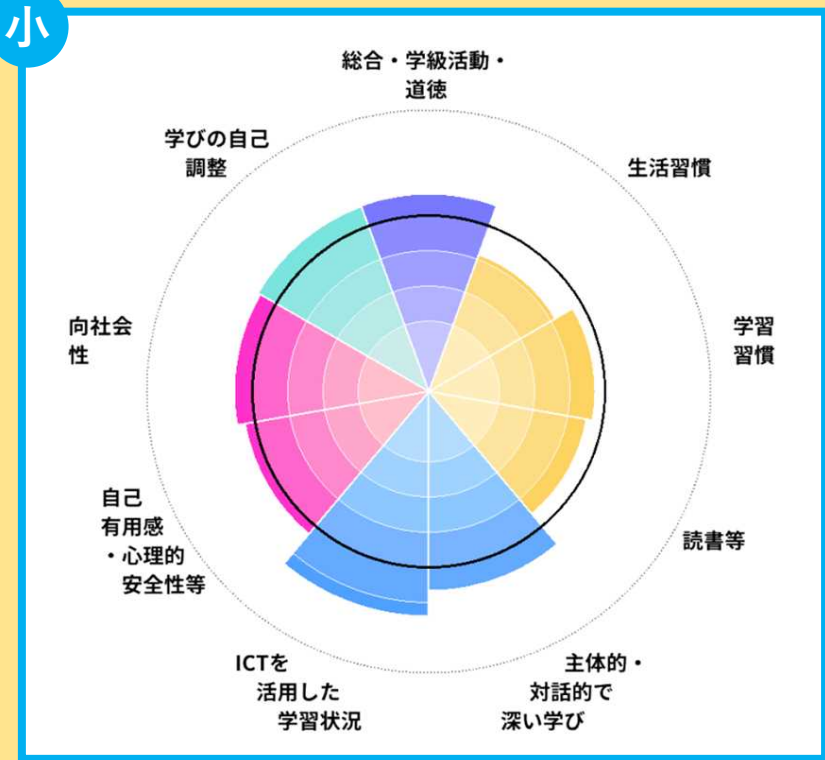
②質問調査

Update 2026.9.30
名寄市教育委員会

質問調査の結果

[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]

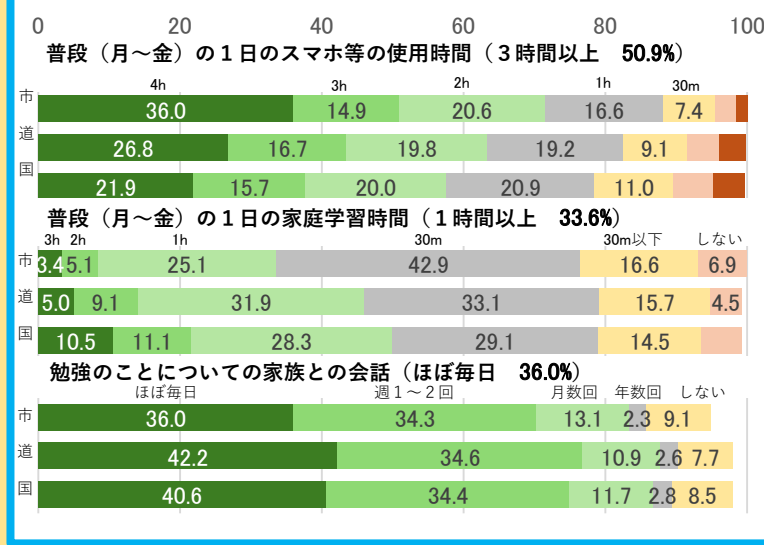
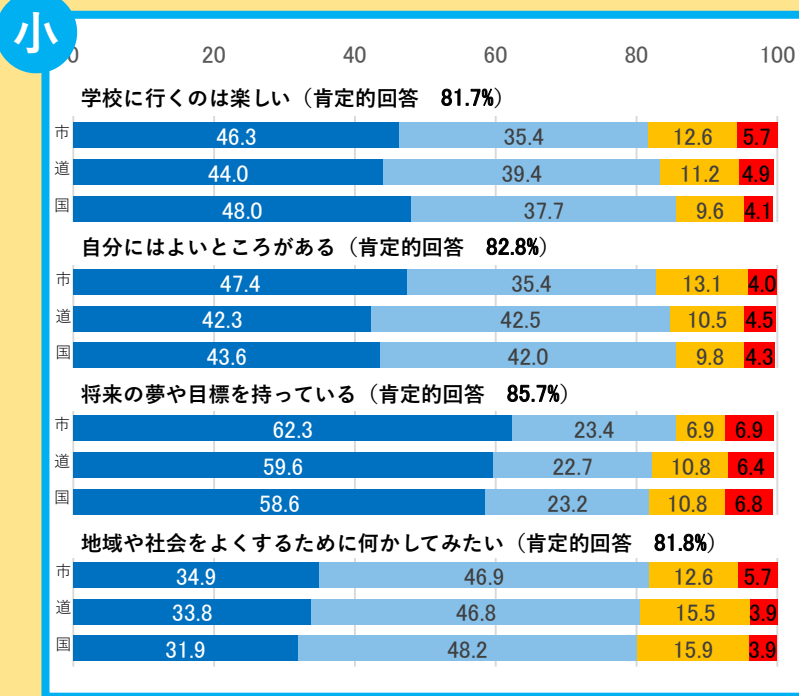
※[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]は、全国との比較です。



児童生徒質問調査

※質問調査については、多くの質問（児童質問73項目、生徒質問80項目）があるため、質問の一部を取り上げています。

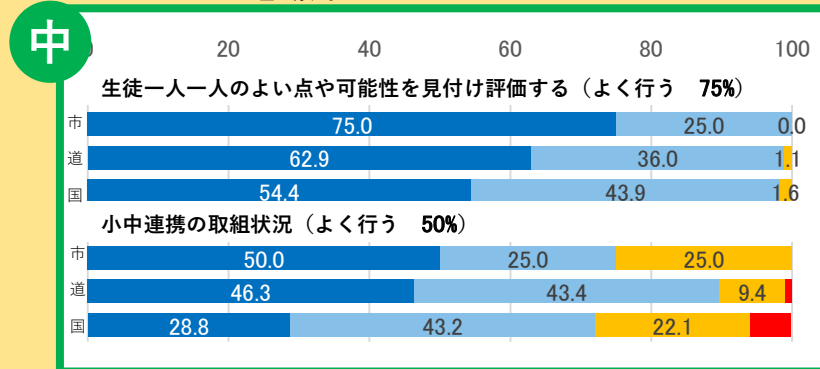
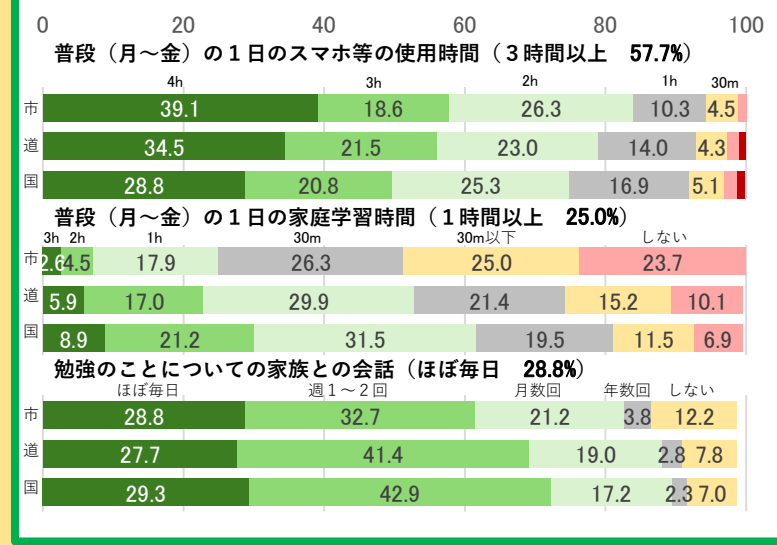
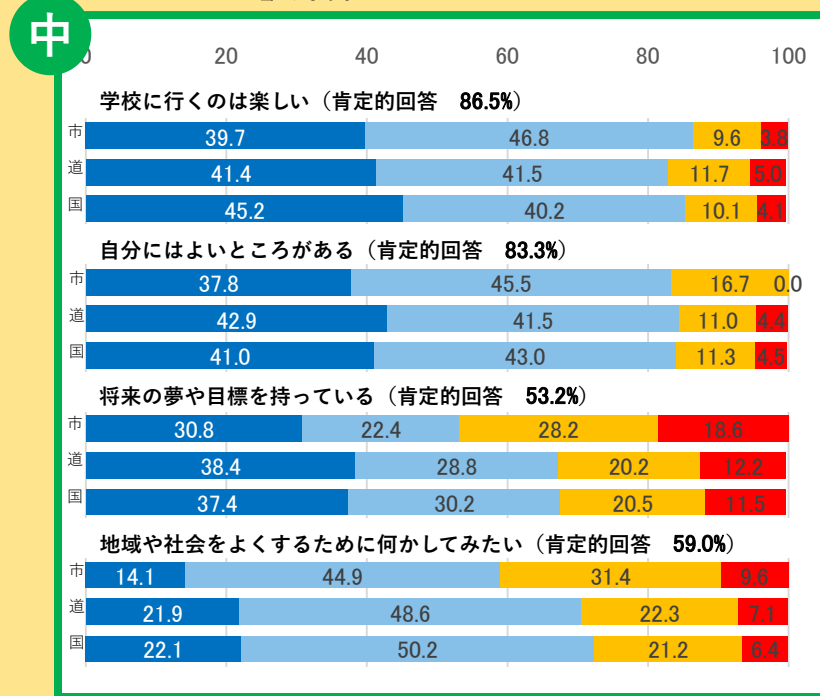
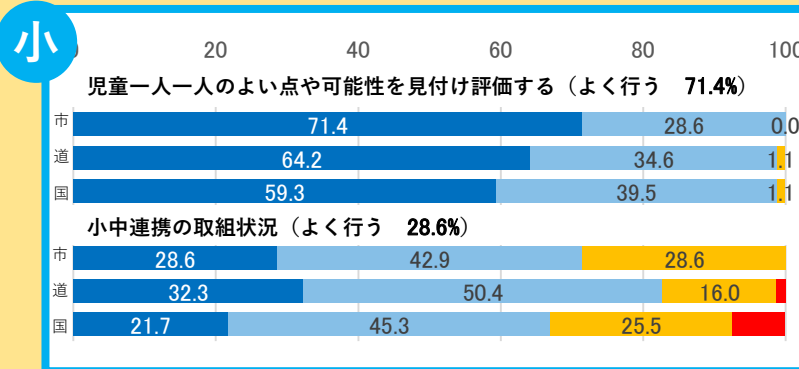
※グラフの回答（内容）は、次のとおりです。
■当てはまる
■どちらかと言えば当てはまる
■どちらかと言えば当てはまらない
■当てはまらない



学校質問調査

※質問調査については、多くの質問（小学校85項目、中学校93項目）があるため、質問の一部を取り上げています。

※グラフの回答（内容）は、次のとおりです。
■よく行う
■どちらかと言えば行う
■あまり行わない
■全く行わない





結果の分析

教育委員会

【全体】名寄市教育研究所（市教研）の教科研究部及び名寄市教育改善プロジェクト委員会が中心となり、市内小・中学校が一体となって主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進したことや、児童生徒がICTを主体的に活用する教育活動を充実させたことにより、小学校では、2教科とも全道の平均正答数を上回り、中学校では、3教科とも全国及び全道の平均正答率を下回ったが、国語においては、全国の平均正答率との差を縮めたと考えられる。

【成果】小・中学校の学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【課題】小学校では算数の思考・判断・表現の観点、中学校では3教科の平均正答率が全国を下回っている状況は、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことや、生活習慣や学習習慣を自ら振り返り、調整する力が十分に身に付いていないことが、要因の一つと考えられる。

校長ヒアリング

学ぶ意義

何のために学ぶのかを子どもと共有することが大切。

主体性を引き出す

「なぜ」「どのように」が苦手。主体性を引き出す単元計画の工夫がポイント。

好き・得意を伸ばす

子ども一人一人のよさを認め合う学級経営が、学びの土台をつくる。

理由の言語化

子ども一人一人が自分の考えや理由を言語化する場面をつくる。

日々の頑張りを可視化

子どもの日々の努力を可視化し、学び続ける力を育てていく。

全学年で実行

全ての学年、全ての教科で考える時間を十分に確保し、自分の考えで表現させることが大切。

小中連携

子どもの声を大切にしながら、小学校での学びをどう中学校で生かしていくかが重要。

言葉による外化

自分の言葉で発信することで、学びの手ごたえを実感する。

話し合い活動の充実

子どもたちの話し合い活動を先生方みんなで充実させることが大切。

夢をゴールに

高校進学が目的ではなく、自分の夢に向かって学ぶことが大切。

今後の改善策

【学校】

☑主体的・対話的で深い学びの実装に向けた“こどもをまんなか”にした授業改善の推進

子どもと学び意義を共有する。子どもの好き・得意を授業に生かす。子どもが考え、判断し、表現する時間を確保し、子どもの対話・アウトプットを充実させる。

☑9年間を通して資質・能力を育成するための“小中連携”の充実

市教研の班研修で小中の教科のカリキュラムを共有する。名寄市教育改善プロジェクト委員会で小中で教育課程を共有する。小中で授業を積極的に参観し合う。

キラキラと輝き

いきいきと学ぶ

子どもの育成



【家庭・地域】

☑家庭での“会話”の充実

こどもの成長にとって、食事・睡眠・会話は欠かせません。特に、日々の会話の時間は、お子さんにとって、とても大切な時間です。引き続き、ご家庭での会話を大切にしましょう。

☑地域の“笑顔”があっての学校

地域の皆さんの笑顔が学校を明るくします。特に、こどもの登下校の際の見守りを引き続き、よろしくお願いします。

【教育委員会】

☑授業改善、校内研修のサポート

名寄市教育改善プロジェクト委員会の授業づくりを支援するとともに、取組成果を市内に普及させる。学校の校内研修に参加し、先生方の研究・研修をサポートする。

☑小中連携のサポート

「キラキラ・いきいき・学びプロジェクト」を企画・運営し、先生方に異校種の授業参観の機会を提供する。